

第6号

平成26年
5月1日発行

きずな

出会う おねあひ 語りあひ
「幸せ」生まれる地域の絆

岡田小学校区
地区社会福祉協議会

岡田小地区社協すまいるサポーター全体会合報告

・・・平成26年2月1日、130名が参加・・・

岡田小地区社協のすまいるサポーター全体会合は、2月1日(土)、中央生涯学習センターで開催され、約130名が参加、先行地区社協の活動紹介、見守りについての意見交換など、有意義な会合となりました。概要は次の通りです。



すまいるサポーター全体会合、たくさん収穫がありました

岡田小地区社協会長 鈴木 朗

岡田小地区社協が昨年3月2日に発足してから11カ月。昨年6月にほぼ陣容が整ったすまいるサポーターの初顔合わせとしてはいささか遅すぎる感もありましたが、第1回岡田小地区社協すまいるサポーター全体会合は、いろいろ準備してきただけの成果は確実にありました。

この全体会合が遅れた直接の原因は、地区社協として実質的な活動に入るための軌道なるべく早く敷くために、見守り体制づくりの勉強会を先行させたからです。

見守り体制づくり勉強会は昨年7月に開催され、ここで、見守りには1対1の見守り体制を確立することが大切だという基本的な方向性を確認することが出来ました。

このお陰で今回の全体集会では「どうす

れば1対1の見守り体制ができるか」という、より具体的な方法論に踏み込んだ議論をすることが出来ました。



全体会合では、先行3地区社協がどんな活動をしているかを、こちらの質問に答える形で話していただいた後、6つの分科会に分かれて、岡田小地区社協は今後どのように動くべきかを議論しました。

6つの分科会でそれぞれ具体的な課題に

ついて話し合った結果、岡田小地区社協が来年度どのように動けばいいかを考える材料がかなり揃いました。これは来年度の活動計画を策定する上で大いに役立つと思います。これが第1回岡田小地区社協すまいるサポーター全体会合の第1の収穫です。

第2の収穫は、地区社協の存在意義と役割に確信を持てるまで来たことです。見守り体制づくりの勉強会や、今回の全体会合での6つの分科会のテーマについてみんなで話し合い、次の行動に向けて問題点を整理するといったことは、1つの行政区でやろうとしてもなかなか難しいでしょう。岡田小学校区12の行政区の人材が集ま

れば、こういうことがわずか1年の間に出来、しかも広報ですまいるサポーター以外の住民の方々にも周知出来てしまう。こういうことは岡田小地区社協の旗の下に180人のすまいるサポーターの方々が集まってくれたから出来るようになったのです。

見守り体制づくり勉強会とすまいるサポーター全体会合、それを伝える6回の「きずな」発行の成果を踏まえて、来年度はどのような活動を行うか。それが岡田小地区社協の役員会、専門部会、運営委員会が、年度明けの5、6月ごろ開催される第1回報告大会までに策定しなければならない課題です。

先行地区社協のすまいるサポーターはどんな活動をしているか

・・・鈴木会長がお話を伺いました



ゲスト

牛久小学区地区社協	副会長 池田矩雄氏
	副会長 中村隆氏
牛久二小地区社協	会長 岩野忠男氏
奥野小地区社協	前会長 吉田文男氏
	広報担当 高橋定氏

牛久小学区地区社協

鈴木 見守り体制づくりはどのようにやっていますか。

池田 牛久小地区社協は3年前に発足しました。見守り対象者の見守りについては、要援護者支援部会を作り、民生委員を中心とするすまいるサポーターがメンバーとなり、見守り台帳登録者の記録に基づいて、各行政区で各々マップを作りそのマップに基づいて、見守り体制をつくりました。

民生委員の方には、要援護者支援部会のサポーターとして是非参加して頂きたいとお願いしました。しかし民生委員でない方も30~40名います。



池田副会長 中村副会長

鈴木 見守る必要のある人と、そうでない人はどう区別していますか。

池田 見守り対象者を、A・B・Cランクに分け、Cランクの人は登録しているけれど元気な方です。見守りは、Aランクの方、状況によってはBランクの方まで見守りますが、主にAランクの方です。

中村 基本的に見守りの対象は、市の見守り台帳の同意登録者に限っています。市に同意登録している人を、民生委員と協力支援者(近所の数名の方)で見守っています。

日常の見守りは、顔見知りでないサポーターの人がやっても嫌がられることがあるので、班長さんが主体で回覧板を持って行くとき、声を掛ける事で様子を知るのも一つの方法と考えています。

今回、初めて市の総合防災訓練がありました。この防災訓練で初めて、地震発生後の同意登録者の安否確認の訓練を行いました。

鈴木 見守り対象者に外に出てきてもらうにはどうやってやっていますか。

池田 牛久小地区の場合、旧集落ごとに色々な講があります。いわゆる昔の組合です。その組合単位で月1回、各地区でご婦人方の観音講などの会合があります。その集まりの中で、最近顔を見ないねというような話が出てくるわけです。昔からやっている集まりで、いまでも立派なサロンになっています。



鈴木 防災についてはどんなことをやっていますか。

池田 防災に関しては、3・11の震災前に全住

民を対象にしたアンケートを取った時に、災害時の支援・助け合いの体制整備と訓練について要望も多く、地区社協の活動を続ける中で、福祉活動だけでなく防災活動、防犯活動も一緒にやろうという気運が強まり、防犯防災活動の専門部会も発足させました。

中村 これまでに小中学校の避難訓練の支援や、大災害発生時の初動訓練として避難所運営ゲーム(HUG)、諸研究施設の視察等を、行政・学校と連携をとりながら実施し、すまいるサポーターのスキルアップにつながりました。今後は、減災のためにどういうことをやっていったら良いか、協議しながら、行政区によって状況が異なることも踏まえ、横の連絡を取りながら進めていきます。

鈴木 学校との連携はどんなふうに行っていますか。

池田 小学校 3、4、5年生を対象に、すまいるサポーターが総合学習の授業のゲストティーチャーになって、お米の作り方や野菜の作り方などを教えています。牛久小の場合は、牛久沼やかっぱ伝説、小川芋銭などの勉強のサポートもやっています。

奉仕作業は小中学校のPTAが行うとき、そこに我々のすまいるサポーター30~40人が出て行って連携するという形でやっています。

中村 防災関係では、帰宅訓練のとき子どもをすまいるサポーターが送っていきます。また、4年生を対象とするぼうさい探検隊に毎年協力しています。これは、防犯、防災、交通安全等について子供の目線で街中を点検してマップにまとめ、それを発表する活動です。学校や保護者の方々だけでは出来ないことを、我々がいろいろな形で学校と連携を取りながらやっています。

牛久二小地区社協

鈴木 二小地区社協ではサロン活動が非常に役に立っていると聞いていますが、どんな状況なのでしょう？

岩野 牛久二小学区は、新興住宅地であり6行政区しかないのですが、サロンのような活動は、各行政区単独ではなかなか出来ない

ので、1つにまとめ、地区社協の事業として立ち上げました。



岩野会長

まず、ふれあい教室の1つとして健康麻雀のメンバーを募集したところ、男女半々ぐらいで30~40名集まりました。毎週木曜日、定例で行っています。食べ物は自由で、弁当を持ってきたりしています。いろんな行政区の方と知り合いになることができます。朝、会館が開くのは10時ですが、いつもその前に来て並んでいる人がかなりいます。

牛久二小地区社協は事務所兼会館を牛久市から借りており、ここで溜まり場活動に力を入れています。平成25年4月からは週5日(月曜~金曜)9:30~17:30まで常時開館し、電話番号の人もいます。



鈴木 サロン活動は、健康麻雀だけですか。

岩野 子育てサロンも有ります。牛久二小地区社協は平成22年6月20日設立ですが、直ぐに子育てサロンを立ち上げました。子育てボランティアを募集したところ、約20名の協力者が集まってくれました。当初は月1回で、13~15組の親子が参加していましたが、その後もっと回数を増やしてほしいという要望が出て、今では月2回、第1・第3木曜日に開催しています。

鈴木 牛久二小地区では、地区社協のベストを着た方が子どもと一緒に歩いているのを見かけましたが……。

岩野 牛久二小地区社協にすまいるサポーターとして登録されている方は約100名います。牛久二小では、毎週火曜日は1年生のみの下校となるため、その日はすまいるサポーターが下校を見守ってあげているのです。

牛久二小の下校のコースは8コースあるので、すまいるサポーターも8グループに分かれて2~3人ずつで見守りサポートしていま

す。サポーターの皆さんには、「出来る方はお願いします」ということで、集まって頂きました。



鈴木 学校との連携、子どもとの触れ合いは、そのほかにもいろいろやっているようですね。

岩野 牛久二小校庭周囲の篠竹や倒木の処理や除草など校庭内外の美化活動支援は年2回、すまいるサポーターが毎回35~40名ぐらい参加してくれます。校内営繕作業や自習・持久走の見守り、昔の遊び授業やぼうさい探検隊などのお手伝いもやっています。

鈴木 ドア・ツウ・ドアの買い物サポートもやっておられるそうですね。

岩野 市社協との協同事業で週2日午前と午後の4回運行しています。市社協にワゴン車を出していただき、ドライバー等の運用は我々が行い、牛久駅前イズミヤへの送迎をやっています。利用登録者は30人ぐらい。ワゴン車は5人しか乗れないので、乗り切れなときは2往復することもあるようです。

鈴木 見守り対象者の見守りは、どのようにやっていきますか。

岩野 高齢者や障害者の見守りはこれからです。なかなか難しい課題なので、皆様の小学校区を参考にしてスタートしたいと考えています。

鈴木 地域交流はどんなふうに行っていますか。

岩野 目指しているのは牛久都民から牛久市民への意識改革ですが、具体的には、研修バス旅行、鍋祭りを兼ねた合同防災訓練、すまいるサポーターの懇親会を兼ねた出前講座、地域の医師によるふれあい健康講座等を通じて交流を深めています。

奥野小地区社協

鈴木 奥野小地区社協には、プロジェクターを使って説明をしていただけるようですが、その前に、前地区社協会長の吉田さんに奥野小学校区の概要をお話し頂きます。

吉田 奥野地区は牛久市の東部に位置し、行政区は 12 あります。面積は牛久市全体の 40% ぐらいを占めていると思います。しかし人口は今年1月1日現在で 5,331 名。牛久市の人口の 6.3% しか占めていません。一軒一軒の家が非常に離れていて移動に時間がかかるという状況にあります。

これからお話いただく高橋さんが住んでいる小坂団地は新しい住宅地ですが、それ以外の 11 行政区は、9 割が農村部であり、都

市化が進んでいません。

そういう関係で、アパートはほとんど無く、みんな持ち家に住んでいます。

したがって奥野小地区社協は、先にお話し頂いた牛久小・牛久二小地区社協とはかなり異なる活動を展開していることを念頭において、これからの説明を聞いて頂きたいと思



吉田前会長

引き続き高橋さんがパワーポイントを使って説明してくださいました。



正直町にある中央保育園の跡地が、奥野小地区社会福祉協議会の事務所です。

私たちの活動理念は何回も協議を重ねた結果、「ふるさと奥野に 笑顔あふれる 人のふれあい 助け合い」としました。

皆さんお正月はどちらを向いて初日の出を迎えましたか。奥野方面ですよ。太陽は奥野方面から昇ります。だから奥野は、牛久市の地区社協活動のパイオニアになりたい。私たちの活動を奥野小、牛久二中の子供たち、若い世代に今後とも支えてもらえる様な活動にしていきたいと願っています。

初の活動は、平成 22 年 10 月 13 日の勉強会です。当初は、地区社協とはどういうものか、

長谷川幸介先生、外岡仁先生からいろいろ教えて頂き、向こう三軒両隣りで支えあうことが大事だと気付かされました。

そしてとにかく集まって何かやろうということで始めたのが「奥野小屋外環境調え隊」です。8 行政区から 23 名の方が集まり、奥野小屋外の草刈、剪

定、枝払い等の作業を行いました。

ある方には校門をきれいに掃除して頂き、またある方には当日都合がつかなかったため、前日 1 人で草刈をして頂きました。お互いに名前を呼び合えば心が通じあえるようになりました。

牛久二中の植木剪定作業では造園業の住民の方が重機を持ち込んできて、高所の作業も難なく終了して頂きました。こんなところが農村部奥野の素晴らしいところです。

いま日本は耕作放棄地がいっぱい出ています。奥野地区も例外ではありません。そこで小学校・中学校の屋外環境整備作業に参加したメンバーで、鎌倉街道沿いにある 6 反歩ほどの荒地をソバ畑か芋畑にしようということで、この

荒地を「夢広場」と名づけました。

この荒地には3畝ほどの雑草・雑木がはびこっており、この除去作業が大変だと思われましたが、さすがはプロの農家。巧みな機械操作で難なく作業完了しました。しかし、除去された大量の草木をクリーンセンターに持ち込めばクリーンセンターが困ります。そこで登場したのがユンボ（小型シャベル）。畑に穴を掘り、全部埋め込んでしまいました。

その後は大型トラクターの登場です。運転席は冷暖房・テレビ付きです。あっという間に荒地の6反歩が立派な耕作地になりました。（※へ）



真っ白な花が咲き乱れる夢広場

（※）次は5月、ソバの種蒔きです。「私はあなたのソバがいい」ということで大人子供入り乱れて種蒔き作業を楽しみました。こうしたことでふれあいの場が段々と広がってきました。9月になりますと鎌倉街道沿いに綺麗なソバの花が咲き乱れました。

そして11月3日、牛久市のワイWai祭ります。ここで、新ソバ粉、ソバケンチン汁、ソバ殻枕を売り、サツマイモのつかみ取りを実施しました。

一番私が感動したのは、かなり高齢のおばあちゃんが「わたしが結婚したての頃は貧乏で米が買えず、ソバばかり食べていました。今日は、じいちゃんとあの頃を思い出してソバ掻きを作って幸せ感じて食べられる」とつぶやいたことです。涙が出ました。ソバケンチン汁は長蛇の列で、1時間ぐらい中断するほどの盛況でした。

自分たちで汗を流し、自分たちで作ったものを皆さんに提供する。そして皆さんに喜んでもらえる。これが福祉活動だと実感しました。

地域の企業から提供された物品・寄付金をもとにして抽選会を開催したところ、大人気を博し

ました。また第二部での余興の数々は小中学生も参加して世代を超えての交流の場となりました。

また、小学校1年生とのふれあいでは、牛久に伝わる2つの昔話の1つ「鎌倉権五郎景政物語」のスライドを、子供たちは熱心に見ていました。もう1つは小坂城筭（こうがい）松物語です。物語の中の「情報の共有化と瞬時の活用」は今の世にも通じることではないかと思われま。言うまでも無く、いずれも舞台は奥野地区です!!

昨年2月に40名ほどで東京消防庁の防災会館を見学しました。途中湯島天神にお参りして安全祈願をしました。



さつまいもの苗の植え付け

さてソバの跡地にはサツマイモの植え付け準備です。50畝もある畝で相当な時間がかかるかと思いきや、これも大型トラクターのおかげで耕作・畝作り・マルチ張りが同時に、あっという間に終了しました。後はマルチに穴を開け、芋苗を植え込むだけで終了です。

この植付けにはオーナー制度を採用、1区画20本の苗で3千円という条件で募集したところ地区内外から大勢の方が参加されました。収穫時には1本の苗から500g以上の芋が8個ほど収穫があり、オーナーも満足そうでした。

住民のふれあいのチャンスをもっと増やすために、去年の暮れから、事務所の常時開放を目指して、週末の土日に10時から13時までの3時間、開放することにしました。卓球台を置き、グランドゴルフも出来るようにしました。両方とも早速利用されています。

奥野地区は千年の歴史があり、小坂団地を除く11行政区に神社・仏閣があります。小坂団地には神社はないので、昔、鎮守の森に人が集まったように、「現代の鎮守の森にしたい」との思いをこめて、新区民会館を建設しました。

分科会報告

下記6テーマの分科会に分かれて、岡田小地区社協が取り組むべき課題について話し合いました。

- (1) 行政区における見守り対象者の1対1の見守り体制をどのように作ったらよいか
- (2) 見守り対象者を自宅外の集まりに参加してもらうにはどうしたらよいか
- (3) 地域や地区社協と学校の連携をどう進めたらよいか
- (4) 買い物支援、通院支援など交通支援をどのように進めたらよいか
- (5) 子育て広場など、子育て支援をどのように進めたらよいか
- (6) 岡田小学校区全体として、住民交流をどのように進めたらよいか



第1分科会 行政区における見守り対象者の1対1の見守り体制をどのように作ったらよいか

司会 栄町行政区 井寺清人氏



高齢者の増加は、悲惨な孤独死をもたらし、オレオレ詐欺・悪徳商法の多発などもあり社会問題化している。徘徊を伴う認知症高齢者の増加対策も急を要する。

④このような状況下では行政・民政委員だけでは到底対応できない。地域住民を巻き込んだ地域見守り体制の確立が急務である。

●今までの見守り体制は？

- ①一般的には、民生委員の個人活動に依存しており組織的・継続的に行われていたとは言い難く、リーダーシップ不在であった。
- ②急速な高齢化の進展で見守り対象者が急増し、民生委員が廻りきれない。その結果、異常事態発生の見落とし、大災害時での安否確認遅延が懸念される。
- ③相談相手がおらず、引きこもりがちの

●理想的な見守り体制は？

- ①江戸時代では5人組での相互監視体制で徳川300年の長期政権が維持された。この5人組制度を現代版の相互見守り体制に編成することが出来れば理想的かと思われる。
- ②つまり、市・行政区・民生委員・地域住民を網羅した組織的な見守り体制を確立して「点ではなく、面での見守り体制」を築くべきである。

●岡田小地区での見守り体制作りをどうすべきか？

- ① 見守り体制を確立するためには、少なくとも年1回は、行政区毎に、区長・民生委員・サポーター他で「見守り対象者特定会議」を開催することが大事。以下の手順でやればそんなに苦労しなくても体制が出来るはず。
- ② 見守り対象者を、区長・民生委員が持っている見守り台帳から緊急度・必要度の高い対象者（病弱な一人暮らし高齢者、歩行困難な人など）をリストアップする。
- ③ 見守りする人（支援協力者）を、対象者のご近所、すまいるサポーター、班長から選定する。
- ④ 民生委員は、③で選んだ支援協力者を見守り台帳に記入して、行政区の役員・支援協力者にコピーを渡す。
- ⑤ 昔からの住民が多い行政区では、既に親戚や知り合いが見守っているケースも多いようだが、その場合は、民生委員がその人の了解を得て見守り台帳に支援協力者として書き込めばよい。
- ⑥ 行政区の役員は防災マップ等に見守り対象者を記入し大災害時等での安

否確認に活用する。

●支援協力者の見守りの実際は？

- ① まずは民生委員と同行して挨拶する。

- ② 日常生活をさりげなく見守る。トラブルの元になるので深入りは避ける。



- ③ 高齢者サロン等イベントには見守り対象者を誘って参加する。
- ④ 大災害時は、先ず自分と家族の安否を確認後見守り対象者の安否を確認し、民生委員又は行政区の役員に連絡する。
- ⑤ 大災害発生時には、行政区の役員は防災マップ等で見守り対象者の安否を確認をする。

●せっかく作った見守り体制は継続・定着させることが大事である。

- ① 見守り対象者は死亡・転居等があれば削除する。
- ② 「見守り対象者特定会議」を毎年1回以上開催し見守り対象者を洗い直す。

第2分科会 サロンなど行政区の集まりに出してもらうには
どのようにしたらよいか

司会 栄町行政区 宮崎敏明氏



●それぞれの行政区で現在の活動状況について話し合った。

- ① パトロール活動を主体に行っている中で、見守り対象者の方を年間の節目にイベントを企画し、参加を呼びかけ会食などを行っている。
- ② サロンで運動（かっぱつ体操、元気教室）を中心に、月2~4回活動しているが、60才から70才代が中心となっている。

③おしゃべりサロンを実施していて、毎回12～13人の参加となっている（実際の見守り対象者は100人を超えている）。ただし、バスハイクなどのイベントの時は20人位の参加はあるが、なかなか参加者が増えない。

④お茶会を月1回実施しているが、出てくる人は限られている。民生委員が声掛けし、見守りサポーターがサポートしている。

⑤このように参加者が限られて、出てこられない人を連れ出すのに苦労している。



●対策として

①お茶会の場等で、皆さんが楽しめる事、お菓子作りや、手芸等を得意な方を講師にイベントを行う等、楽しい会であることをアピールする。

②定期的に楽しい会を続けることで、参加すると楽しいことがあるという話が広まって、参加者が増えるように時間

を掛けて進める必要がある。

●その他の参加者からメモによる以下の意見表明がありました。

①会場が近くにあれば、又、知り合いが参加していれば出掛けるきっかけになるのでは！

②民生委員とサポーターが連携して活動した方が良い。

③リハビリ体操とお茶会を組み合わせ、気軽に参加するよう呼び掛ける。

④参加者が固定化するのは仕方がないが、サロンを継続することが大事。

⑤サロンでは、たまに手作り料理等を行い、楽しい会である事をアピールしつづける。

⑥行事内容にこだわらず、見守り対象者も参加できるテーマを一緒に考えて活動しては。

⑦区民会館を最大限に活用して、住民全体に参加を呼び掛ける。（2～3回/週オープン）。

⑧見守り対象者が主体となり魅力あるイベントを考える（見守り対象者で組織する素人劇団など）。

⑨見守り対象者から全世代に情報を発信して行くという発想が大切。

⑩仲間づくりから始めて、更に輪を広げ皆が気楽に集い会える場を確保。

第3分科会 地域や地区社協と学校の連携を どのように進めたらよいか

司会 松ヶ丘行政区 鈴木朗氏

一中から栗山校長、
岡田小から立花教頭
が参加されました。



①牛久市では全小中学校で、1人1人全ての生徒に学びを保障する学び合いの授業を展開している。そのために先生も校長も専門家として育つための学び合いを行っており、全ての学校で「学びの共同体」を実現しようとしている。校区の住

民は保護者だけでなく一般住民も、先生方の努力に関心を持ち、支援し応援する必要がある。

- ② 心を育てるのは学校だけでは難しい。家庭だけでも難しい。学校、家庭、地域のつながりが必要だ。
- ③ 学校、家庭、地域の交流は意識して仕組みないと出来ない。
- ④ その1つとして地区社協がPTAや親父の会と連携することも検討する価値がある。学校とPTAと地区社協で語り合う機会があった方が良い。
- ⑤ 学校は地域を意識してやっている。子どもをなるべく地域に出したいと思っている。子どもがなるべく地域の人たちと触れ合うことを願っている。



- ⑥ 地域の人々が学校行事に大勢参加し、子どもや保護者が地域の行事に大勢参加するようにすることが望ましい。
- ⑦ 学校はあいさつに力を入れている。あいさつは人として生きていくベースだ。
- ⑧ 地域の人々にも子どもにあいさつをしてやって欲しい。それも、子どもがあいさつをしたら返すということではなく、大人の方から率先して声をかけて欲しい。

- ⑨ 地域の方は学校で授業の支援も出来る。例えば家庭科で教える技能では、教師より主婦の方が上手なケースは多々ある。
- ⑩ 小学校1、2年生が街に出る授業もある。そういうとき地域の人に同行してもらえると、先生は非常に助かる。



- ⑪ 奉仕作業などの場合、技能的な面で保護者や先生だけでは無理なこともある。そういう場合、技能、ノウハウを持った地域の人に手伝ってもらえると助かる。
- ⑫ 以上のようなことを行う場合、地域の人のうち誰が何を出来るか、自分に出来ること、技能、得意技などの登録バンクがあると、活動を展開しやすい。
- ⑬ 408号の宝積寺付近の歩道は非常に狭くて危険だ。こういうところの問題は、付近の人だけでなく地区社協全体の問題として取り組む必要がある。
- ⑭ 上太田のように子どもの人数が少ないところの問題も、地区社協全体として取り組む必要がある。
- ⑮ 学校の門は授業中は、登下校時以外は締まっているが、カギを掛けていない。住民も必要なときは遠慮無く訪れてもらいたい。

第4分科会 買い物支援、通院支援など交通支援をどう進めたらよいか

司会 上柏田行政区
鶴長文正氏



- 現状
かっぱ号があるが、本数が少ない。また、団地内など近所にバス停がない。

● 支援を行う際の課題

- ① 近くであれば一緒に行ってあげられる。しかし、近くをどこまでとするか。支援の距離をどこまで、どのように決めるか。
- ② 認知症の人への買い物支援は、同行するのか、車まで戻ってこられるのかなど困難が予想される。
- ③ 交通事故の際の対応をどうするか。
- ④ 行き先がわかってしまうのが嫌だという声もある。
- ⑤ 利用者にとっては、送りだけではなく迎えも必要だろう。送り迎えを分担して支援する体制ができると、サポーターも支援しやすいのではないか。

- ⑥ 移動が不自由な人のはっきりした数を把握することがこれからの活動の基になるのではないか。

● その他

ボランティアが牛久市の車を使用して交通支援を行っているケースもある。そういうやり方を岡田小地区社協に生かしてはどうか。

● まとめ

交通支援について、人数も含めてどのようなニーズがあるのかを調査する必要があり、すまいるサポーターができる支援は何かということ具体的に考えていくうえでの課題がはっきりした。

第5分科会 子育て広場など、子育て支援をどのように進めたらよいか

司会 上柏田行政区 伊藤光美氏



見守りをするCさん

- ・障がいのある子どもの送迎、塾の送り迎え、学童保育の迎え、台風、インフルエンザで学級閉鎖になってしまった時に子どもだけでは留守番ができないケース

など、保護者のニーズは多い。しかし、対応できる人手が足りない。送迎など、男性ができることも多い。

● 各自の子育て支援への取り組み状況を伺った。

- ① 子育てサロンを運営するAさん
 - ・月に1度の開催。最近では5組ぐらいの利用。他の行政区から来られる親子がほとんど。親の介護もあり、いつまで続けられるか将来的に不安。
- ② 子育てサポーターとして、母親が出かける時などに子どもを預かるBさん
 - ・すくすく広場を利用。子どもの家で見守りをするより、お互いにより利用法。
- ③ NPOのサポーターとして子どもたちの

④ 中1と4歳の子をもつ

現役の母親Dさん

- ・牛久二小地区社協の子育て「いちごサロン」に参加。そこは、ふたばランド保育園を使用しており、新しくきれいな施設で駐車場も広い。どこの地域から参加してもOKなのが良い。

⑤ 現役のお母さんたちの声として

- ・行政区の公民館を放課後自由に使えるよう開放してほしい。

●まとめ

- ①子育て支援を利用したい人がサポーターの活動を知らなければ活用できないので、現在実施されている子育てサロンや子育てサポートも含めて、これからのすまいるサポーターの活動も宣伝や広報が大切である。
- ②活動中事故にあったら・・・など懸念される点も多いので、具体的な対応策は今後必要だろう。

- ③利用する側もサポーターとして活動する側も、「こんなことならできる」「この時間ならできる」など具体的に登録してもらうことで、擦り合わせができるようになるのではないかと。これは高齢者の見守り時においても必要なことと思える。
- ④牛久市の子育て環境は10年前よりは随分良くなっていると感じられる。地区社協の取り組みは高齢者の見守りが中心であると思われるが、子育て支援にもぜひ取り組んでほしい。

第6分科会 岡田小学校区全体として、住民交流をどう進めたらよいか

司会 中柏田行政区 宮澤靖氏



を増やすことから実行してはどうでしょうか。以下の2点が考えられます。

- ① 各行政区で行われる行事、区民会館やたまり場などで行われる活動に、他行政区の人でも自由に参加できるようにする。

このためには、各行政区民の理解を得るように働きかけることが第一歩となります。

- ②参加希望者が選択できるように、各行政区等の行事や活動の情報を広く公開する。

これらの行政区単位の輪が、やがて岡田小地区全体に広がっていくことが望ましい方向だと思われます。

●現状

一口に岡田小地区といっても、昔ながらの慣習が残る村落共同体的な行政区もあれば、よそからの転入者が多く人間関係が希薄な行政区もあります。また、各行政区で何かイベントを行っても、いつも参加する人は同じ顔ぶればかりといった状況も見られます。

●対策

住民交流の目指すところは、互いの顔を知り合い、あらゆる世代の居場所を作り、支え合う地域にすることです。今まであまり地域のイベントに参加しない人にもまずは参加してみていただくことが大事なので、やってみたいと思ってもらえる環境作りが必要です。そのために、参加できる行事等